全中柔道大会レポート

黒埼中柔道部
全国ベスト8

8月22日から24日まで愛媛県今治市体育館で男子団体・個人戦の熱戦が繰り広げられた。黒埼中柔道部から永野雄大（3年）、風間直人（3年）、神田祐輔（3年）横山喬之（3年）、庭山俊（3年）椎谷明仁（2年）、天尾真太朗（1年）の7人の選手が参加、応援には他の柔道部員や父兄を含め総勢約30人が駆けつけた。

予選リーグでは高津中（島根県）に4－0で圧勝、次の南加瀬中（神奈川県）には3－0と余裕でリーグを勝ちあがった。

決勝トーナメント1回戦は大川中（香川県）と対戦。先鋒・横山が1分すぎに払い腰を掛けられ有効をとられる。次鋒・神田が逃げようとする相手を気合の入った抑え込みで1本勝ち。中堅・天尾は内股を掛けに入ったが返され技ありを取られる。これで1－2と劣勢に立たされる。副将・庭山の積極的な攻めに、相手もこらえ切れずに内股からくずれ有効を奪って2－2の対に追いつく。大将・椎谷は序盤から大外や払い腰と果敢に攻めるが、ポイントを取れないまま試合終了。2－2と対で終わったが内容勝ちで勝利を収めた。

この時点で選手が掲げた目標のベスト8に見事に輝いた。

準々決勝は大府北中（愛知県）と対戦した。先鋒戦は横山が開始から積極的に攻め、足払いから技ありを取り優位に進める。後半、体落としで1本を決める。次鋒戦は中盤に入って内股から有効を取り、2－0とリードする。中堅戦は果敢に攻める相手と互いに投げの応酬になったが、攻めた瞬間に裏投げに合い1本を取られる。副将戦は100キロを超える相手の投げをよくこらえたが、払い腰を決められ2－2の対になる。大将戦は最初から投げを打ちに積極的に攻める。相手も必死に耐え、一瞬のすきをつかれ横車の技ありをとられる。2－3となり惜しくもベスト4入りを逃す。

畳上を引き上げて来る選手一人一人を工藤一弘監督が、笑顔と握手で出迎えた。そして選手一同は観覧席の応援団の前で横山主将の「応援ありがとうございました」の声に合わせて一礼をすると大きな拍手が沸いた。礼儀正しさとすがすがしさが場内に感銘を与えた。

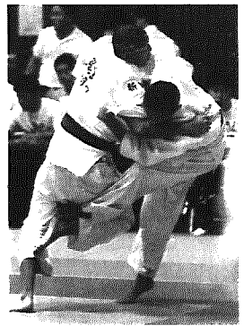
惜しくもベスト4を逃したものの、念願のベスト8に輝いた。県勢としては、昭和55年の全中大会（白根第一中）以来18年ぶりの快挙である。「選手たちがめざした目標が達成できた。それぞれがしっかりやってきた成果です」と監督から笑みがこぼれる。横山主将は「ベスト8入りがかなった。もう一ついけるかと思ったが相手が強かった」と喜びと共に悔しさものぞかす。神田副将は開口一番「うれしいです。ベスト4も手が届きそうになったが、全国のカベは厚かった。後輩に託します」とサバサバと話す。「新潟のチームは気が弱いと言われるが、夢や意欲を持ってやればかならず全国の上位を望める。黒埼チームが証明しました」と工藤監督は大会を振り返る。全国から強豪が集まったこの大会は「勝っても負けるも紙一重」と言える。強いと思われたチームが次々と敗れ、勝ち抜いていくには一層の個々の精神力が要求された。黒埼チームは色々なプレッシャーに耐え、持ちまえのチームワークが見事に結実、上位に食い込んだ。2年連続の全国大会出場、昨年のベスト16からベスト8と着実にチーム力が上がり、今後1・2年生の後輩が「黒中柔道部」の良き伝統を引き継ぎ、新しい歴史を築き上げて行くことを望む。

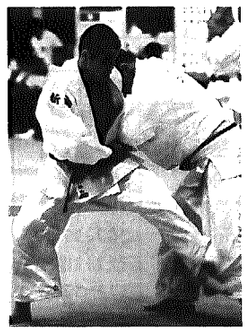
（文・写真　興野四　横山）

椎谷選手の抑え込み

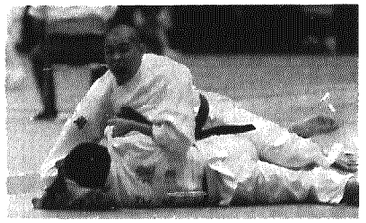
庭山選手の払い腰

天尾選手の組み手争い


永野選手の大内刈り


横山選手の足技

神田選手が有効をとる


風間選手の寝技

スポーツと私

生涯スポーツシリーズ　No.10

ライフル

あたりまえなことが出来ないものがスポーツ

山田第二　掛神　茂幸

私がこの種目を選んだ理由

私は現在警察官として県警機動隊に勤務し災害が発生したとき、現場で救助活動にあたっています。

ライフル射撃（センターファイアーピストル競技）との出会いは、今から十年程前、県警の「拳銃（けん）選手」として全国警察大会や全日本選手権大会に参加するようになったことからであります。

ところで皆さんはこの競技をご存じでしょうか。おそらくほとんどの方が初めて耳にするものと思います。ここで若干説明したいと思います。この競技は三十八口径の自動式又は回転式拳銃を使用して、二十五メートル先にある標的に向けて運撃ち三十発、速撃ち三十発の計六十発（六百点満点）で競い合います。これはオリンピック競技にこそありませんが、アジア大会等の国際大会や国民体育大会の正式種目となっています。

種目に進んで良かったこと悪かったこと

この種目に進んで良かったことは、困難にぶつかる心構えと集中力を教えられたことであります。

失敗しても失敗してもいつか上手になることを信じて何回でもやる。練習の課程はばかばかしいようでも決して諦めない。そして時、私のような不器用な者でも練習の中から一つのコツをつかみ記録が伸びたときに、大きな喜びと自信が得られるのです。

心を無心にしてただ黙々と一つのことを繰り返す。これが本当のスポーツなのであり、この競技を始めて以来私が生活を通して貫いてきた信条であり目標でもあります。

次に悪かったことですが、私個人としては特にありませんが、妻や子供達にはどうやら不評のようです。というのは射撃の大会や強化訓練のほとんどが休日にあることから、家族サービスが疎かになるからです。特に大会のシーズンとなる春から秋にかけては、家族の目はより一層「冷ややか」です。妻には呆（あき）れられ、娘たちからは「またパパいないの」と散々です。この様な時、私はいつも決まって「これも仕事の内だ」とあしらうのですが、内心では今までやって来たのも、家族をはじめ周囲の温かい励ましと協力があってのものと感謝しています。

全国大会に出場するまでの苦労及び今後の目標

この度国体に出場するにあたり自分なりに次の目標を設定して挑みました。それは「普段の練習の力を発揮する」というごくあたりまえな目標でした。しかしそのあたりまえなことが出来ないものがスポーツであり、ライフルスポーツ（射撃）も例外ではありません『緊張』と『プレッシャー』に押し潰されて思うように得点が伸びないばかりか、射撃の際には足の爪先から身体全体が震えてしまう等、大会と練習とでは格段に違うのです。そこで訓練内容をメンタルトレーニング（プラス思考）中心に切り替え大会に望みましたが、結果はやはり初出場のプレッシャーには勝てず、五百五十七点（十一位）と不本意なものでした。今後再び出場する機会があれば是非当初の目標を達成して八位以内入賞を果たしたいと思っています。

その他、意見要望

おわりに、新潟県の競技レベルは全国的に見ても決して高いとはいえません。その要因として競技施設の不足と、競技人口の低迷が上げられています。そこで皆さんの中で少しでもライフル射撃競技に興味のある方・やる気のある方がいらっしゃれば、ぜひ「新潟県ライフル射撃協会」までご連絡をいただければ幸いです。

スポーツ大会

◆第14回混合バレーボール大会
（7月20日、総合体育館）
優勝・プリンプリン②新通ニューストリートクラブ③ホーンテッドファイリー③GUTU（ブーツ）敢闘賞・大野チーム
※12チーム参加

◆第20回黒埼町少年野球大会
（8月24日、町営野球場）
Aブロック　優勝・大野小A②立仏小③黒鳥小③木場小
Bブロック　優勝・大野小②立仏小③山田小

◆平成9年度全国中学校体育大会
（8月19日～24日）
水泳競技　男子400mメドレーリレー決勝進出7位入賞・永井成、堀内圭、滝沢裕平、若林清文、村山諒
柔道競技　団体戦8位入賞・横山喬之、風間直人、神田祐輔、庭山俊、椎谷明仁、永野雄大、天尾真太朗　個人戦78kg級ベスト16・神田祐輔

◆第30回黒埼町民魚つり大会
（8月31日、緒立）
大人の部　優勝・田代敏男②野崎勇③那須野一男　**子供の部**　優勝・渡辺拓也②宗村崇③藤由佑太郎　**特別の部**　鯉賞・宗村誠

◆第101回碁友会囲碁大会
（9月14日、黒埼町公民館）
A級優勝・荏原祐司　B級優勝・永田幸寛　C級優勝・橋立勝
※　次回は11月3日午後1時、黒埼町公民館（役場2階）で開催します。文化祭行事の一環としての囲碁大会ですので、どなたでも参加は無料です。初めての方も多数お誘い合わせの上、ご参加をお待ちしています。
?荏原祐司（☎377－2532）

◆銃剣道護国神社秋季奉納大会
（9月15日、新潟市）
団体戦優勝・古俣侃、長谷川勇次、石川弘　個人戦②石川弘